

## 2025年万博基本構想検討会議

### 第1回 整備等部会 議事録

#### 【開催概要】

- 1 開催日時 平成28年7月22日（金） 16時00分～18時00分
- 2 場 所 大阪府庁本館3階 特別会議室（大）
- 3 出席委員

#### <有識者>

江原委員、澤田委員、橋爪委員、森下委員

#### <行政>

田中委員（代理出席：高橋理事）、田村委員（代理出席：柴市長公室長）、  
辻委員（代理出席：宮崎副市長）、田代委員（代理出席：種村副町長）、  
伊吹委員（代理出席：井上博覧会推進室長）

#### <経済界>

出野委員、児玉委員、齊藤委員

#### 【議事次第】

##### （1）会場について

- ・会場要件等について
- ・過去の開催地について
- ・会場候補地（7か所）の概要について

##### （2）その他

- ・会場整備のあり方について
- ・府域への広がりや関西各府県との連携方法について

#### 【配布資料】

- 資料 1 : 当面の検討スケジュール  
資料 2 : 会場候補地の要件（BIEの審査視点等）  
資料 3 : 過去の国際博覧会の会場概要  
資料 4 : 候補地7か所の概要  
資料 5 : 国際博覧会の主要な施設・事業の構成について（澤田委員提出資料）  
資料 6 : 2025年日本万博基本構想（私案）（森下委員提出資料）  
資料 7 : これまでの検討会議・部会で出された意見と論点  
参考資料 : 万博について（澤田委員提出資料）

## 【内容】

### ○事務局

政策企画部長から挨拶

配布資料の確認

資料 1 「当面の検討スケジュール」について説明

### ○橋爪部会長

資料 2 「会場候補地の要件（B I Eの審査視点等）」、

資料 3 「過去の国際博覧会の会場概要」について説明

### ○大阪府の委託業者（日建設計総合研究所）

資料 4 「候補地 7 か所の概要」について説明

### ○橋爪部会長

ありがとうございました。ご意見、ご質問などあればと思いますが、今の説明内容に関しての質問、確認事項ですね。あと、会場として整える要件、面積、施設と土地利用などに含めまして、大きな観点からご意見がございましたらお願いします。

### ○事務局

若干、補足説明がございます。候補地のうち、府営公園の万博記念公園と服部緑地、大泉緑地の 3 か所、大阪市営公園であります花博記念公園、鶴見緑地につきましては、地元市におきまして、広域避難場所に指定されております。そのため、活用にあたりましては、地元市との調整が必要になります。また、夢洲につきましては、現在、まだ埋め立て中の地区があること、それから観客輸送上に欠かせない鉄道インフラが現状はないという課題があるため、現在、大阪府、大阪市におきまして、会場とすることが可能かどうかを検討しているところでございます。また、万博記念公園につきましては先程説明があったエリアは国有地でありまして、現在、府が借り受けて公園を運営しております。そのため、貸し付けにあたっては国との調整が必要になります。公園内西側に森林区域には希少生物が生息しておりますので、その配慮が必要という点がございます。

### ○橋爪部会長

確認ですが、広域避難場所に指定されているということは、もし、そこで博覧会を行う場合は博覧会期間中は代替地を確保しなければいけないということでもよろしいでしょうか。

### ○事務局

代替地の確保が必要となると思われます。

○橋爪部会長

何かご意見、確認すべきことがございましたらお願いします。

澤田委員、口火を切っていただければ。

○澤田委員

質問ですが、彩都ですけれども、アクセスは彩都西駅からシャトルバスでしょうか、鉄道が延伸するという可能性はないのでしょうか。それから現状はほとんどが森になっているという状態なのか。全体は大きいんですけど、民間の27ヘクタールというのは、どの辺りにあるのでしょうか。民間がやっているところを使う訳にはいかないでしょうか、虫食いになって形がすごく悪いみたいなことがあるのかどうかを彩都について教えていただけないでしょうか。

○橋爪部会長

お願いします。

○事務局

彩都についてお話しさせていただきます。まず、モノレールの延伸につきましては、彩都西駅以降、延伸の予定はないと聞いております。

次に、森林部分につきましては、万博会場とするならば開発が絶対に必要になってくると思います。

次に、民間で開発されているところなんですけれど、この地区とこの南の端、東の端と南の端ということを知っています。

以上でございます。

○橋爪部会長

ちょっと補足しますと、モノレール延伸に関する元々の計画がありますが、今は事業着手には至っていません。

あとは、東部地区に関しては、新名神の工事がいま進んでおりまして、北側にインターチェンジができます。利便性が高まります。茨木市の事業の進め方を拝見しますと、アクセス道路を整備をしながら、ロジスティック等に順次、売却していく段階かと。もしここで万国博覧会となると、現状の事業や構想が、一旦止まる。どこまで進んでいるかはちょっと確認しなければいけませんけども。いま考えられている開発の工程などを一旦止めていただくことが前提になると思います。他にいかがでしょうか。お願いします。

○森下委員

この間の経過もわからず、発言して申し訳ないですけど。前回の全体会議で、夢洲が

候補地と出ていたと思うんですけども。それ以外も含めて検討するという段階にまだあるんですか。状況が理解できないんですけど。話が戻っているように思うんですが。

#### ○事務局

説明が不十分で申し訳ございません。

夢洲は、要は知事の試案ということで、知事の思いということで、この場所で出来ないかということでお示しをした場所でございます。それ以外の6か所につきましては、昨年、可能性検討の中で一応100ヘクタール以上の用地が確保できる見込みがあるところということで、ご提示をさせていただいた場所です。そこも含めて現在どういうところが可能なか、6か所プラス試案で示している夢洲、7か所について現況をご説明をし、次回また現場を見ていただいて、大きな視点からいろいろご議論いただいた上で、我々としての適地での最終的に進めたいというふうに考えています。

#### ○森下委員

では、否定する話をしてもいいということであれば、私は吹田市に住んでいるんですけども、万博記念公園、服部緑地はないと思います。正直、吹田市民としては、私も反対です。既にエキスポシティが出来て渋滞大変なんで、もうこれ以上やるのは勘弁して欲しいというのが皆さんの思いだと思うんですね。

彩都も彩都西、中部も私関係してますけども、これアクセスから見てもないだろうと。そういう意味でいうと、やっぱり舞洲、夢洲くらいしかないと思うんですね。夢洲とか、非常にある意味ランドデザインが一から描けるという。最初の大阪万博をやった時と同じような状況にあるので、私のイメージとしては、ここに万博をもって行くために、どういうインフラを2025年に関西として要求するのかというのがポイントだと思います。私の試案を出している中に、私は北陸新幹線を新大阪まで2025年には着きますから、そこからりんくうを通過して関空まで繋げるべきだと書いています。その中に夢洲に駅を作って、新幹線で本当は繋いでもいいんじゃないかと思います。本当はリニアを繋いだ方がいいという感じなんですけど。上海みたいに逆に関空からリニアを新大阪まで繋げる中で、夢洲に駅を置いたらいいんじゃないかという意見が本音です。せっかく日本万博をやるのであれば、前回も御堂筋から新御堂、それからいわゆる北大阪急行ですね。先ほどちょっと話ありました、千里中央から通って、実は万博の前まであったんですよね。それが終わった後、一旦はいじゃって、結局後でモノレールを作った訳ですね。全体の構想を考えるともったいないことをしていると思うんですね。今回そうではなくて、2025年のインバウンドの状況とも踏まえると、関空から万博会場を繋いで、新大阪、京都、神戸といういわゆる関西広域連合を考えた時に、どういうインフラを整備すべきなのか。そうした大きい絵を描いた中で、何が必要なのかという議論をする形で、この基盤構想といいますか、この検討会議のイメージだと思っているんですけども。現行のバスがどうかとか、そういう話って

あんまり関係ないんじゃないんですかね。それを見たところで、実際に万博で対応ができるはずがないですし、場合によっては鉄道も道路も新しく作るという提案をしない限り、これ意味がないですね。東京オリンピックでもう東京は2020年までたぶんインフラ作りまくっている状態なので、新規に東京に投資をするという公共事業はあり得ないだろうと。そうすると今度は2020年以降、18年以降になると思いますけれども。関西でどういうインフラを整備して、この万博に備えていくか。そういう議論を是非して欲しいなと思って来たんです。何かお話を聞いていると、非常に小さい、いまのところでやりますという話だと、たぶん3000万人受け入れられる場所ないですね。どこでやろうと。そういう意味では、ちょっと視点が本当にこれでいいのかなというのをちょっと疑問として思っているんです。すみません。端から突拍子もない話をして申し訳ありません。

#### ○橋爪部会長

事務局、何かないでしょうか。

#### ○事務局

本当に貴重な視点でありありがとうございます。実はそういう議論をまずしっかりしていたきたいというのが我々の思いなんです。ただやはり今現実がまずどうなっているかということから、委員間で共通認識をもっていただきたいという思いがあります。特に、大阪のことをよく、先生みたいに知っていただいていたら、大体会場の雰囲気はおわかりだと思のですが、やはり日本全体の中で万博をどう位置付けるかという視点で議論を深めていただくということなので、今回と次回は現場もできるだけ見ていただいて、ここならこういう絵が描けるなど、そういう絵のためにはどういうアクセスがあるんだとか、或いはどういう交通網を考えないといけないかというような、大きい議論をできるだけしていただきたいと思います。そのためにもまず、現状だけはいくつか候補地上がった部分と、状態をよく知っていきいただきたい、ということで今日は議論をしていただくということで、決して細かく話をマイクロにあててやっていただくということではないので、そこは申し訳ないですが、我々の説明不足もありましたけれども、そういう視点からご議論いただければと思っておりますのでよろしくお願いします。

#### ○橋爪部会長

大きな視点から、ご意見をいただくことが大前提の場です。ただ交通計画などは、2025年に竣工しているというスケジュール感が必要。これ10年先、議論を重ねて、20年先とかの計画を立てている場合ではない。博覧会会場と基盤は10年後に完成している、という現実的な議論が必要です。先ほど申し上げました愛知万博の場合は、跡地利用が当初ありまして、海上の森というのは瀬戸の陶芸の土を取った、環境破壊をしたところがメイン会場として当初、想定されていまして。跡地を住宅地と研究開発拠点にするという利用計画を

示して、愛知開催を勝ち取ったわけです。その後、希少種に関する環境問題があって、そこはダメだという話になって、ほんの3年位のあいだで急転直下し、既存の公園を主会場とすることになった。愛知への誘致の際は、最初、カナダのカルガリーが確かライバルでした。環境回復をはかる良い計画でしたが、実際、当初とは違う会場になったことをどう評価するのか。私たちも跡地利用計画とインフラ等との関係性というのも必ず精査されますので、そのあたり、考える必要がある。要は将来の夢物語は跡地利用で語り、まずは2025年にこういう整備を行うという絵をまとめていかななくてはならない。

#### ○澤田委員

愛知万博をリアルに体験して、痛い目にもいっぱいあったりしてですね、いくつかの視点があります。一つはですね、技術的な話ばかり言って申し訳ないですが、集客の可能性、要するに人の集めやすさというのは非常に重要だと思うんですね。その時に普通は、会場からコンパスでぐるっと描いて、ある範囲に何人住んでいるのかというのが重要になるんですね。そうした時に陸地には人が住んでいるんですけど、海は住んでいないので、集客性という意味で言うとやや海の方が不利であるということがあり得ます。ただ、万博というのは非常に巨大な集客力があるので、それを凌駕することは十分可能だろうと思います。

それからやはり今重要なのは、事業費の問題だと思いますね。やっぱりかつてのようにどんどんお金を使って夢の世界をというのなかなか合意が出ないというか、あまり意味のない前時代型の博覧会になりやすいので、やはりハードにしても運営にしても、なるべくコストがかからないということがすごく重要だと思います。そういう意味でいいますと、今ご紹介あったように愛知万博は、結果あの公園を使うということになったのですが、あの公園は起伏が30m以上もあって、ものすごい丘陵地なんですね。今行ってみても、よくここで博覧会ができたなという位ものすごいところで、グローバルループという超離れ業をやったんですが、そのための整備費がすごくかかった。批判だけではなくて、それがアイコンになったということもあるんですが、あれだけの人工地盤を作ったということはやはり相当お金がかかっている。もう一つ気になるのは、運営で言いますとパーク&ライドの時代ではありますが、必ずお金はかかります。できるだけ近いところに駐車場が設けられる方が運営上いいと思いますし、そういう意味で言うと、公共交通機関がピタッとアクセスしているということは、非常に運営費の削減にはものすごく役には立つだろうと思います。事業費としては、やっぱり丘陵地で行うことはあまりお勧めしません。土地の切り盛りで、あまり効果のないところでお金がたくさんかかってしまうということですね。

3点目はやっぱり自然破壊です。これはものすごく博覧会開催が良い悪いの話を超えてきますので、希少生物がいるところは絶対避けた方がいいと思います。これは愛知万博の経験からですけども、意義とか意味とかということを全く超えた話となります。愛知万博もBIEから、日本の万博は地雷の上に乗っていると認識すべき、と環境保護の市民団体ときちんと話をするように指導を受けて、そこから方針の転換をしたということもありま

す。愛知万博が2会場になったのは、先ほど部会長から瀬戸の森で行われる予定がそれによって公園での開催になったというお話なんです、あれは環境アセスがちょうど同時に進んでいて、環境アセスをやり直すと間に合わなかったんですね、2005年に。しょうがないので一部変更ということにするために、瀬戸会場を残さざるを得なかったんです。あの森で環境アセスの調査をしていたので、全部外すと一からやり直しということなんです。ただ一部だけ残しておく、修正ということで、ぎりぎり間に合うということで結果瀬戸会場ができたということなんです。そうすると、ゴンドラリフト、結果的に儲かったんですけども、あの事業費は相当かかっています。それ以外の2会場結ぶための費用もかなり出ました。愛知万博は結果的に人が来たのでそういう問題は起こりませんでした、おそらく人が少なければ、その負担がものすごくのしかかって、赤字になったであろうということは容易に予想されますので、できるだけ自然破壊の負荷がないところを選ぶということがいいかなと思います。そう意味で言いますと、やっぱり臨海地区の埋立地は自然破壊が非常に少ないと思われるのでいいかなと思います。それからやはり地形というのは非常に重要で、ミラノ万博もそうなんです、結果ああいう長い会場になるというのは非常に巡るのに疲れるんですね。1.5 kmもあると1.5 km行って戻ってくると、もうほとんどそれでおしまいみたいなことになるので、できるだけ地形は良い方が、要するに四角に近い方がよくて、例えばりんくうタウンのような形はちょっとあり得ないだろうと思われま。それから愛知万博も158haメイン会場だったんですが、実際には森とかありましたので、実際使えたのは100ha弱なんです。有効は100切ってもいいんですけども、やっぱりちょっと100に近い117とか126で、そういうところの中に池とか山とか入ってるというようなことになると、相当混雑した会場になってしまうんじゃないかなということが想定されますので、この時代に気持ちのいい博覧会会場を作ろうとした時に、密度の高い会場になってしまう恐れがあるので、できるだけ広さはあった方がよい。この資料では、結果的には私としては夢洲が一番良くて、彩都も先生のように近くに住んでいる方からするとないということですが、造成に伴って自然破壊の非難が出ないのであれば、ここもあるのかなと思いました。以上です。

#### ○橋爪部会長

ありがとうございました。夢洲の場合も、これから埋立しなければいけない土地です。ただメガソーラーで使ってるところは産廃で埋めているので、ここを使うわけにはいかない。あと、舞洲の方も側が産廃でした。一部産廃を入れている島が二つある。大阪湾の場合は、ベイ法の関係で、大阪湾の環境への負荷に対して、どう対処するのかということで埋立許可をとってきている経緯があります。山の方は森や希少種の問題ですけど、海の環境問題に対してどう向き合うのかというのが問われる場所ではあります。

#### ○森下委員

そういう観点でお話しすると、澤田委員の話は非常に重要だと思っています。今回はおそらくインバウンドが半分を占めるというのがポイントだと思うんですね。おそらく3千万人の目標のうち半分ぐらいはインバウンドの客が来ないと、おそらくなかなか関西の周辺だけで集めるというのは難しいだろうと思います。そういう意味で、外からのアクセスがいいという点で、関空あるいは伊丹からのアクセス、あるいは新大阪からのアクセスということを考える必要があると思います。もう一点は、大阪府民として言えばですね、大阪は森が少ない、緑が少ないので、ど真ん中の緑を潰すのはだいぶ反対があるんじゃないかと。潰したあげくまた緑を戻すんだと訳分かんない話なんで、そこはやっぱり市内の緑地の所はないんだろうと思うんですね。そういう意味では、彩都か海沿いかという話になると思うんですが、彩都に関して言うと、道路がもう作るスペースがなくて、周りが全部住宅地なんで、アクセスがとりようがないと思うんですね。モノレールを伸ばしても、正直そんな輸送力が出ないんで、これもやっぱり厳しいと思うんですね。そういう意味では、今の府民が考えてる状況から考えると、海沿いの夢洲・舞洲のどちらかだろう。その中でも、やっぱりこれから造るとするのは夢洲しかないんだろうとは思うんですね。問題は、いかにインバウンドあるいは国内の客を集めるような仕組みができるか。先ほど部会長が言われたように、後のことを考えるときにどういうものを持ってくるか。その時にどういうアクセスを造っておけばいいのか。先ほど言ったように、万博の時も本当はずっとそのまま鉄道を残しておけば、今更モノレールを造らずに済んだと思うので、やはり後から見たときになんでこんなばかなことをしたんだろうというようなことはしない方がいいと思うんですね。そういう意味だと、今の夢洲は万博後 IR にするのがいいと思います。IR にする中の感覚として、ここをどうやって万博会場に利用するかという的な発想でアクセスも造っていかないと。また、IR ができたら 10 年後に新しいニュートラムを造るみたいな話になると意味がないと思うので、ぜひ先を考えるという感じでいくと、そんなに候補地は多くないのかなという気がしまして、今澤田委員からも夢洲が出ましたけど、白紙から書けるというのはここぐらいしか残っていないのが実情だろうという気がします。

#### ○橋爪部会長

だいぶ絞り込まれているようなご意見が多いんですが。

#### ○江原委員

江原でございます。私、今、皆さんのお話をうかがっていて、テーマとの関連で会場候補予定地のことを考えてみました。長寿とか健康となると、やっぱり緑がほしいですね。どこの候補予定地が一番緑が多いのか、お聞きしたいと思っていました。と言いますのは、万博の会期というのは5月からだいたい10月頃までですね。そうすると、非常に暑い。私の経験でいきますと、上海万博の時に一番問題となったのが暑さ対策です。日本館は、暑

さ対策をめぐって、BIEとも随分やりあいました。BIEの意向を受け中国側事務局は、人気館の日本館、サウジアラビア館、ドイツ館の3つのパビリオンを対象に、炎天下で長時間ならんで入館を待っているのは、健康上問題があるから整理券を出せと、言って来たんですね。これについて、子細に検討しました。その結果、整理券を出したらかえって混乱する可能性が高いことがわかり、その理由をつけて、要求を突っぱねました。突っぱねたのは日本館だけでした。上海万博では、万博史上初めて、日本館の政府代表がステアリングコミッティー（陳列区域政府代表団運営員会）の委員長になったんですね。だから、この問題には、矢面に立って、慎重に対応しました。結果的には、整理券を出しませんでした。主催国の要求を突っぱねたのは、前代未聞だと言われました。中国側は、よくBIEのことを聞いていました。結果的には、中国側が、日陰をさらにつくるなどの措置を講じるといった暑さ対策を強化することで、決着がつかしました。同じことが大阪万博でも起こる可能性があるのではないのでしょうか。先ほど緑といいましたが、緑とは木々などのことです。単純に言えば、木々が多ければ日陰が出来て、その分、暑さ対策になる、ということです。木があれば、暑さ対策はいらないということではありませんが。緑には、環境にやさしく健康に良いというイメージもあります。まさにテーマに緑というのはかかせないのではないだろうかと思ったわけです。木がなければ、緑を思わせるような会場づくりをする必要があるように思います。上海万博のテーマは、“より良い都市 より良い生活”でした。上海万博会場は、上海市のど真ん中からはすこし離れていますが、正に都市といわれるのにふさわしい場所であったわけです。他にもいろいろ考えられますが、健康と長寿には緑や緑を思わせるような仕掛けや建造物があったほうがよいと思いました。

#### ○橋爪部会長

はい、他にご意見いかがでしょうか。お願いします。

#### ○齊藤委員

私は森下先生とほぼ同じ意見です。やっぱり夢洲がいいのではないかなと思う。万博の一つの狙いは、やはりインフラ整備がある。この際に、ミッシングリンクなど今大阪・関西が抱えているインフラの整備促進を狙うのが必要だ。それと、将来の大阪・関西を考えた場合、ウォーターフロントの開発というのは非常に魅力的だ。ですので、今7つの会場を色々聞いてみても、日本万博跡地や、鶴見緑地というのはあり得ない。りんくうも細長くてあり得ない。そうすると消去法でいうと、夢洲とか舞洲だろうと思うんですけども、丁度今、IRを夢洲に誘致しようという動きがありますので、それとリンクさせるというのが一番合理的と思う。夢洲のIRの反対派の人たちはIRをカジノ、博打だと言っているが、最近の流れから言うと、ラスベガスのようにエンターテインメントを中心に家族が楽しめる形の方が非常にいいんじゃないかなと思う。夢洲にはそういうものをIRとして誘致し、かつこの万博が健康・長寿を掲げれば親和性が高いんじゃないかなと思っております。で

すので、夢洲がいいなと思うんですが、問題は本当に夢洲で開催可能なのか。交通アクセスは何かなるのかもしれないですけど、埋め立ての問題が非常に残っている。それと、IR との前後関係、これが一体どうなるのか明示されていない。いずれにしても、早く大阪府・市に夢洲の埋め立てについて結論を出してほしい。

○橋爪部会長

技術的な面で精査していただいているところだということによろしいでしょうか。

○事務局

はい。

○齊藤委員

それを早く出してほしい。議論の土台がないのに、夢洲だ、夢洲だと言っても始まらないので。

○事務局

おっしゃるとおりで。夢洲について、先ほども事務局の方から説明させていただきましたように、埋め立てが可能なのか、あるいはその交通インフラってところで、どういうふうな課題があるのか、それを府と市で技術的に整理をしているということです。ただ、いろいろとこれを算出するにあたって、技術的な部分がありますので我々としても早く整理をしたいと思っているのですが、この 8 月くらいをメドにその辺の整理をできればというふうに考えています。ここは我々もスピード感を持って進めたいと考えている。

○齊藤委員

8 月をメドといたら、8 月のいつなんですか。

○事務局

8 月の末くらいですね。

○齊藤委員

8 月の末に出てきても、先ほどのスケジュール表を見たら、検討会議の結論を出す時期に間に合わないんじゃないですか。

○事務局

その部分については、基本構想にどういう形で盛り込むか、スケジュール感としてパリの立候補に状況もありますので、それを見極めながら、我々としても進めていきたいと思

うんですが、如何せんそこはちょっと技術的な部分ありますので、早めには整理をしたいと思っているんですけど、今のところはそれくらいをメドにというふうに考えています。

#### ○橋爪委員

経済界から前向きな発言をいただいたので、ありがたいところなんですけど、要はどのような砂を入れるかで、全く異なる。浚渫した海砂とか川砂とかで埋める想定土地なので、埋め立てからまた沈みます。完成までに何年もかかるということなので。山を削って、ここに土を入れるのかとかいう話になってくるでしょう。かなり技術的にも費用面でもきちり専門家の間でつめていただかないと、どれだけの費用で、何年に埋め立てがどこまでできるのが課題です。今まで想定されているスケジュールをがらっと変えようという話ですので、そこはおっしゃるように 8 月までに、できるだけ急いで検討いただきたいと思っています。

#### ○森下委員

今のお話の中で、ウォーターフロントの開発って、やはり大阪府にとって非常に大事なので、まず一つはそれをやはりするかしないかというポイントが大事だと思いますね。大阪、関西全体の発展構想の中で、万博を位置づけないと、万博だけぽこっとあるっていうのは、やはり無理な話なので、何のためにやるのかというところをしっかりと大阪府・市の方でも一回理論構築してもらい必要があるということですね。そのアクセスに関していうと、やはり海沿いにあるメリットはたぶん船が使えるということだろうと思うんですよ。神戸とか徳島、関空から海上のバスを走らせるなどで、このアクセスは結構一時的に確保はできやすいんじゃないかと思うんですよ。ですから、そういう要素も一つは入れた方がいいと思います。それから、さっきあった緑って非常に大事だと思うんですけど、もう一点、今回はお年寄りも来るので、高低差はできるだけない方がいいんじゃないかと。彩都に私も研究所を運営しているので、僕でもしんどいんですよ。やはりお年寄りの方があそこを上り下りするっていうのは、よほど歩く歩道とかつけないと、無理なんだと思うんですよ。そこがやはり一つポイントとしているのかなと。そういう意味ではお金がかかる丘陵地っていうのはやはり大変ですよ。そこもちょっと視点として留意しておかないといけないのかなと思います。

#### ○江原委員

緑っていうのは、木々ばかりでなく、緑のイメージが出せて日蔭がつけられるような仕掛けでもいいわけです。

#### ○森下委員

せっかくなので、ヤシの木が生えてもいいとか。

## ○橋爪部会長

ベイエリアの開発に関しては、ベイ法の関連で、関西全体でベイエリアをどうしようかというようなことを議論して了解されてきた経緯がございます。あと、大阪でいえば、オリンピック招致をまさにこのエリアで行なった。スポーツアイランドという名称が名残になっているかと思いますが、そういう過去の経緯を踏まえてまた次の形を整えていきたいと思えます。またこの一帯は、国際集客都市を目指す大阪府が位置付けてきたという経緯がありますね。

最後に私から2点だけお話をしたいのです。ひとつは主会場で100haは確保しなければならないというのが前提ということ。ただその主会場と近傍にサテライトがあっても良い。上海の場合は川を挟んで両側に会場があった。ただ、何十キロメートルも離れて、第二会場とするというのが、BIEとしては難しい。あと、絶えずみなさん広域で連携とおっしゃいますが、愛知の時も名古屋市は、連携をするかたちで別会場で独自のイベントをしておりました。万国博覧会は、100haを主会場をおかないと、主催者側としては準備したことにはならないということです。複数の場所に分かれてもいいんですが、そこはきちんとアクセスされてつながっていることが前提。

第2には世界の各都市の見本市会場とか、博覧会会場とかの計画等を見ますと、国際空港と都心との間に置くっていうのがグローバルスタンダードだと思います。上海の場合でも、新しい空港からリニアの終点に見本市会場を整備し、初期のアイデアではそこからリニアを伸ばして博覧会場にいたるという計画であった。大阪の場合、現状は、一旦都心に入って、南港のインテックスに行くと位置関係になる。最近の世界の新しい展示会場、博覧会会場の設計とは違うと思えますので、関西空港の位置からどうかというところが一つ重要になってくるだろうと思えます。先ほどミラノの例などもご紹介しましたが、国際空港と市街地中心の間に主会場を置くかたちです。これはまた大事なことだと思います。

ということで時間も限られておりますので、一つ目の議題はこれで締めさせていただきます。引き続き次回でも継続して議論をしたいと存じます。あと、次回の会合の前に視察を予定しておりますので、いくつかの府の公園なども現状を見ていただきながら、その上で次回会合を持ちたいと思っております。あと、本日もご意見いただけなかった部分なども、別途事務局にお寄せいただければと思えますので、よろしく願いいたします。追加のご意見いただけましたら、また共有をしてみたいと思っております。

では、議題の2でございます。まず会場整備のあり方についてということでございます。資料5 国際博覧会の主要な施設・事業の構成についてということで、これは澤田委員に用意いただいた資料をご説明いただきます。よろしく願いいたします。

## ○澤田委員

資料5 「国際博覧会の主要な施設・事業の構成について」について説明

#### ○橋爪委員

続いて、森下委員も資料を出していただいていますので。

#### ○森下委員

これは見ていただいたらいいと思います。全体的ではなく、個人的にこういうものはどうかということ。先ほど言ったように、インフラとして、関西の経済活性化の中で、万博を利用して何かを作っていこうと。そういう観点がないと、既存のものを伸ばしていつてどうこうというのは物足りないのかなと。10年先が遠いのか、近いのかはよくわかりませんが、ただ北陸新幹線を含めて、2025年までにいろんな整備がなされてくるし、ここで整備しないと、次のウォーターフロント開発やIR整備も、当然インフラでまた悩むということになりますので。経済産業省さんも来られています、思い切って国の支援をいただいて、関西全域にインフラを作る良いきっかけである。そういう視点を含めて、簡単に書いている。あくまで個人的に思っていることですのでご参考までに紹介させていただきました。

#### ○橋爪委員

残り10分少々でございます。その他で前回の検討会議の中でもご意見出たかと思えますが、府域への広がりや関西各府県での連携方法なども、我々整備等部会でも考えていくべきだと考えています。今、澤田委員の会場の整備のあり方及び広域連携の方法などに関して、何かご意見等あれば。いかがでしょうか。経済界では。

#### ○出野委員

前にも議論があったと思いますが、できるだけ共鳴・共感する層・人・地域を増やしていきたいという意味でいうと、日本全体というテーマであるが、少なくとも大阪だけでなく関西が一丸となっておこなうべき。ただ、分散開催は難しいと、さきほど部会長からありましたので、それはないとしても、関西一円の地域が主催者になって、コンセプトだけでなく具体的な仕掛けに取り組んでいくべきではないか。

#### ○橋爪委員

さきほども澤田委員から説明がありましたように、基本的に主会場はゲートで囲って、そこで入場料を取るという形ですので、そこは、2カ所に分かれても、100haまとまったところでなければならないということ。他にご意見はございますでしょうか。なければ最後に経済産業省から。

#### ○伊吹委員（代理：井上博覧会推進室長）

さきほど森下委員からお話がありましたように、国全体の成長戦略との連携という観点

や、万博を一つの契機として今後どのように成長していくのかということを考えていくことが重要。澤田委員の資料にあります主催者サイドの事業、社会実験などは、万博会場だけではなくて、外側でいろいろな取り組みを行うことは、多くの人を取り込むことが出来る。

10年後、15年後の大阪・関西をどのように描いて、その成長戦略をどうするのか、また万博をどう位置付けるかなど、これらをパッケージで検討していくことも重要。

また、なぜ大阪で開催するのかを他地域との関係で説得的でなければいけない。大阪の特色をテーマ・事業に盛り込むとか、大阪が健康・長寿関連で積極的に取り組んでいるとか。我々の方もいろいろなアイデアを出していきながら協力していきたい。

#### ○橋爪委員

博覧会は絶えず、その時の最先端のテクノロジーの社会実験を会場内で行ないます。半年後、数年後に社会のなかで実践されるということになります。70年大阪万博では、会場全体のエネルギーシステムを面的に管理するということや、情報を1か所でコントロールして、いくつかの電光掲示板に、センターでコントロールして適切な時に適切な情報を出すことが日本で初めて行われた。またあれほどの距離の動く歩道を導入したのも最初ということ。その時代の最新のテクノロジーを導入、毎日15万人以上の人が集まる「実験都市」で社会実験を行ない、そこで実用化に向けたテストができてサンプルが取れる。現状でいえばビッグデータやIoTになるんですが、ぜひ、既存の技術ではなくて、2025年段階でさらに先に行っている技術の実験の場となることを、会場計画でも強調しておくことが大切だと思います。

ありがとうございました。予定の時間がほぼ来ておりますが、最後に、これだけはということがありましたら。

#### ○澤田委員

関西広域でということですが、関西はやはり多様性があると思いますね。大阪、兵庫、京都、奈良とあるわけであるが、こんなに多様性のある地域はない。東京でやると、一つになってしまうが、関西でやる要素は、広域でそれぞれの個性を出していくということ。ノーベル賞もおそらく関西が多いんじゃないかと思いますが、多様で独創的な発想というのは、一極にまとまらないから出てくるものであって、要するに、東京はどちらかというと効率化に行くので同じ指向を持ちやすいのですが、全然違う発想で多様なところで独創的な新しいものを作っていくというのは関西の強みだと思う。今回の万博の主会場は100haあるところで開催するのだが、関西各地で多様性を活用してどういう発信ができるのかということが、日本のためにも世界のためにも非常に重要だと思っているのが一つ。それから、国際博覧会ということもあるのだろうけれど、東アジアということも大切だなという気がしていて、主会場は関西にあるのだけれど、韓国とか、中国とか、東アジアで

やる万博なんだという視点も、片や必要な気がしていて、文化や歴史を共有する中で、博覧会は戦争をしただけではないわけですから、そういうことを保っていく交流とか使い方というのもしっかりいんじゃないかなというふうに考えると、関西の多様性を活かしながら、少し他の近くの国ということも考えた方がいいのではと私は思います。

#### ○橋爪委員

博覧会は、もともとショーケース、世界や地域をその場所に集めてくるということであって、会場の中に世界があり、そこに関西が展示されているということ。また、会場の外の連携もありますが、会場の中に、関西には日本の最も素晴らしいものがすべて集まっているんだという面でも連携をつくるべき。

#### ○森下委員

実は政府で健康・医療戦略推進会議の参与会合が開かれて、そちらに出席して帰ってきて、まだ健康・医療戦略が公表されていないので内容は説明できないが、まさに、大阪が日本万博をやろうとしている内容が政府の健康・医療戦略そのもの。そういう意味では、これから健康・医療戦略を進めていく中で、それをどうやって世界に発信していくか、大阪万博、日本万博の話を紹介させてもらったのですが、当然まだ何も決まっていないので政府の方も何も知らない人が多いんですけども、事務局、各省庁から来られている方も含めて興味を示されていた。やっていく以上、どこかで発信しないといけない。なかなかいくら紙を使っても発信できないので、この日本万博で、それを世界に発信するちょうどいい場だと思います。さすがに10年もやればいろんなものができてくるのであろうと思いますので、そういう意味では時期的な面も含めて、さきほど橋爪部会長がおっしゃったように、そこまでに出来て、あるいは2025年の5年先に実用化できる技術を、全部オールジャパンで盛り込むような場にするということが大事だと思います。これから先、健康・医療戦略等もうまく取り込んで、そうした内容をこの日本万博の場で見せられるような組み立てにするということも大事だと思う。介護、あるいは先端的な技術等も、ほぼ今日本でやっている話は全部盛り込まれていますから、そこが実際にここで展示すると、政府全体として日本万博を開催することのメリットが非常に大きくなると思うので、ぜひ、うまく政府の施策とも連動させていただきたいなというふうに思います。数日中には公開されるだろうと思いますので、是非内容を見てうまく盛り込んであげればと思います。

#### ○事務局

政策企画部長より挨拶

事務連絡

【閉会】